

☆ 世界

繊維消費

世界主要地域のミル消費---2009年

Fiber Organonによると、2009年の世界のミル消費は前年比1.1%減の7,171万トンとなった。世界のミル消費を2004年の水準と比較すると11.0%増、年率では2.1%の伸びとなった。

地域別にみると、アジアが5,422万トンと世界全体の75.6%を占めている。2004年比では29.0%（年率5.2%増）の大幅増となり、地域別に唯一ミル消費が増加している地域となった。

なお、繊維ミル消費（ミル消費）とは、紡績、織物業者など紡織段階に投入される繊維量のこと、その国の紡織産業の生産動態を示す指標となる。

世界主要地域のミル消費

(万トン、%)

	合計	アジア	北米	南米	西欧
2004	6,460	4,198	749	260	516
2008	7,252	5,315	574	263	457
2009	7,171	5,422	483	254	406
04年比	2.1	5.2	-8.4	-0.5	-4.7
前年比	-1.1	2.0	-15.8	-3.6	-11.1

	東欧	アフリカ	中東	オセアニア
2004	180	114	425	18
2008	175	98	355	15
2009	153	91	347	16
04年比	-3.2	-4.3	-4.0	-2.1
前年比	-12.7	-6.9	-2.2	6.1

(注) 04年比は年平均増減率

2004-09年の地域別・素材別ミル消費年平均増減率

(%)

	綿	化合繊
アジア	3.7	6.2
北米	-10.5	-7.7
南米	0.9	-2.0
西欧	-9.4	-6.1
東欧	-4.2	-2.3
アフリカ	-4.1	-5.4
中東	-3.6	-4.3
オセアニア	-9.2	-0.1

☆ 中国

繊維政策

産業用繊維業界の発展方向性

中国産業用繊維品協会の朱民儒理事長は、中国の産業用繊維産業の第十一次五カ年計画の発展状況と第十二次五カ年計画（十二五）における発展の方向性について、中国紡織網に対して以下のように語った。

・中国の産業用繊維産業は第十一次五カ年計画期間（2006～10年）に大きく発展した。量の拡大だけでなく、質の向上も達成することができた。主な達成は以下の3点である。

- ①設備の進歩。ここ数年、中国の繊維機械の技術向上は進み、たとえば不織布設備など一部は海外との競争が可能となっている。そのため、インド、中東、欧州、一部では米国市場へも輸出している。これは、国産設備の品質が既に国際水準に達していることを示している。
- ②原料の進歩。ここ数年の技術進歩により、原料の国産化が進んだ。用途開発も絶えず進み、高性能繊維の開発の余地を与えた。中国の各種の工業用繊維は急速に発展しており、高強力ポリエステル、高強力ナイロン、HMLS、産業用ポリプロピレンFなど既に自主研究開発による生産が増加している。今後はさらに特殊化、専門化の方向に進んでいる。また、新型複合材料では、風力発電において、ガラス繊維の利用が進み、発電所に用いられる骨格材料には炭素繊維の使用が始まった。中国の産業用繊維品は、中国のエネルギー産業の発展に伴い、大きなチャンスが生まれている。
- ③ハイテク繊維の進歩。先進的な設備導入、後加工技術、用途開拓などを進めたことで、例えば、防護材料などについては、多くの企業は品質水準の高い商品のハイテク繊維の生産が可能となり、さらに、輸出も行っている。現在は、ハイテク繊維の用途として、医療用、建物、環境保護、航空・宇宙、国防分野などますます広がっている。

第十二次五カ年計画の発展方向としては、技術開発をさらに進め、中国と国際的な先進国の技術水準の格差を埋めることを目標に、省エネ、環境保護を考慮しながら製品の系列化、多様化を進めていくという。全体の発展方向として、主に3点あり、第1はプラットフォームの強化、第2は、業界関連の標準化（現在、業界は複数の標準、あるいは不備があるため業界の健全な発展に不利）、第3に人材育成とサービス体制の強化を目指すという。環境対応については、リサイクルの推進と環境汚染を抑制する素材開発、すなわち、水質処理、気体処理、防塵フィルターなど強化を進め、さらに新たな防護服の開発強化で労働者の環境改善

を目指すという。

☆米国/韓国

通 商 米韓 FTA が妥結へ

2010年12月3日、米韓 FTA が合意に達したことが発表された。両国は 2007 年に既に合意していたが、その後、内容の一部を修正する追加交渉を行い、改めて合意した。早ければ 2011 年中に発効の見込みである。そのうち、繊維分野の合意内容は、関税撤廃では、双方が 10 年以内に 100% 関税撤廃、米国側は品目数の 87%、輸入額の 61% を、韓国側は品目数の 97%、輸入額の 72% を即時撤廃する。

韓国繊維産業連合会の盧喜燦会長は、今回の妥結でアセアン、EU に続く巨大市場との FTA 妥結で輸出拡大のチャンスが増大するだけでなく、韓国の繊維産業が高級化、差別化製品に特化することで再飛躍の機会になると歓迎の意を示している。さらに、韓国の対米繊維品輸出をみると、2009 年は 11.1 億ドルと全体の 10% を占めている。対米輸出は 2004 年の 28.3 億ドルから 6 割以上の縮小となったが、最大で約 30% の米国の繊維品に対する関税が撤廃されれば、輸出の回復につながるとの期待が示されている。

一方で、米国の繊維製造業界の代表である NCTO（全米紡織製造業者協議会）は、米韓 FTA に対して、関税の削減スケジュール、税関管理、および原産地規則の一部について、米国紡織産業の雇用を脅かす条項が含まれるとして懸念を示している。

韓国の相手別繊維品輸出（100 万ドル）

	2004	2008	2009	シェア
世界計	15,197	13,335	11,579	100%
アセアン計	2,030	2,875	2,822	24%
中国	2,768	2,630	2,284	20%
米国	2,831	1,504	1,107	10%
EU27	1,561	1,189	930	8%
日本	788	665	638	6%

☆ E U

通 商 高強力ポリエステル F への確定 AD 税

欧州委員会は、12月1日、2009年9月に調査が開始されていた中国、韓国、台湾産高強力ポリエステル F に対する反ダンピング（AD）調査の最終決定を発表した。中国産については、ダンピングの事実及び損害有

りと最終決定し、12月2日から確定AD税の賦課が開始された。一方、韓国、台湾産が、ダンピング・マージンがデミニマス（2%未満）との判断からAD措置を行わず、調査手続は終結となった。

中国のポリエステル企業別の確定AD税率は以下のとおり。調査期間中に応訴した企業の大部分は約5%程度のAD税率またはシロとなった。

中国の企業別確定AD税率

企業名	確定AD税率 (%)
浙江古織道新材料有限公司	5.1
浙江海利得新材料有限公司	0
浙江尤夫工業纖維有限公司	5.5
黒竜江龍滌有限公司 韓国暁星(嘉興)有限公司 上海温龍化織有限公司 紹興海富化織有限公司 中国石化上海石化有限公司 無錫太極実業有限公司	5.3
杭州華春化織染織有限公司	0
亜東工業蘇州有限公司	9.8
その他	9.8